学校番号	１００１

令和８年度　芸術科　音楽

教科	芸術	科目	和楽器演習	単位数	２単位	年次	２・３年次
使用教科書	なし						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

和楽器演習では、和太鼓を中心とする「和楽器」を使用して、基本的な奏法から楽曲の演奏まで行います。日本古来の楽器である和太鼓や笛の演奏や、演奏において必要である所作など、様々なことについて知識や技能を身につけたうえで、最終的には一つの曲を人前で完奏できることが目標です。その過程で、チームで協働することや自分の表現技能を磨くことなど、ただ「太鼓をたたく」というだけに留まらない、協調性や主体性を身につけてほしいと考えています。

2　学習の到達目標

『学習指導要領』の科目目標に準じて、器楽に関する学習を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、専門的な音楽に関する資質・能力を育成することを目指す。
(1)楽曲や楽器の表現内容について理解を深めるとともに、創造的に器楽表現するために必要な技能を身につける。
(2)音楽性豊かな表現について考え、表現意図を明確に持つことができるようにする。
(3)音楽性豊かな表現を追求するとともに、日本の伝統的な楽器の特性を活かした表現についても理解を深められるようにする。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a　知識・技能	b　思考・判断・表現	c　主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	和楽器にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能など、和楽器を使用する上で必要な知識や技能を身につける。 他者との調和を意識して演奏することや、表現形態の特徴を活かして演奏することを通じて、自分の表現意図を表すことを学ぶ。	和楽器の構造や特性の分析を通じて、演奏における適切かつ創造的な表現について、他者と協働しながら考えていく。 和楽器の文化的・歴史的背景について知り、それを踏まえた演奏や表現、取り扱いについて考える。	楽曲の演奏を中心とした授業展開の中で、様々な形態やチームでのアンサンブルを行い、生徒が自他の特性を意識しつつ、より良い演奏となるよう互いに評価しあうことを通じて、器楽表現を一層幅広いものにしていく。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元の学習内容	単元の評価規準	評価方法		
			知(a)	思(b)	主(c)
前期	和楽器の種類と基本奏法 ［教材］ 和太鼓	a：和太鼓の種類や奏法の違い、和楽器製作の歴史や過程について知り、ふさわしい扱い方をすることができる。 b：音量の調節や振り上げの位置、奏打の速さなど、自分の表現のベストを目指して演奏している。 c：準備から片付けまで、積極的に授業に参加し、相互評価についても積極的に行っている。	実技	実技	実技 準備
後期	楽曲演奏 ［教材］ 和太鼓ほか	a：複数のパートに分かれてアンサンブルに取り組む中で、自身が担当する楽器の特性に応じた奏法を実施できる。 b：音量の調節や振り上げの位置、奏打の速さなど、自分の表現のベストを目指して演奏している。 c：同じパート、あるいは異なるパートとの合奏を通じて、他者と協働しながら表現することを学ぶ。	実技	実技	実技 相互評価
	グループでのリズム作り ［教材］ 和太鼓ほか ［教材］	a：チーム対抗でリズムを作り、全体の前で演奏することを通じて、和太鼓楽曲のリズムの特性や表現の方法について知る。 b：音量の調節や振り上げの位置、奏打の速さなど、自分の表現のベストを目指して演奏している。 c：チームの中で案を出し合ってリズムを作りあげていく中で、それぞれのアイデアを一つにまとめ、一つの音楽として完成させることを学ぶ。	実技	実技	実技 相互評価

※表中の観点について　a：知識・技能　b：思考・判断・表現　c：主体的に学習に取り組む態度